

地域課題研究開発部門報告

小林恵子, 石田和子, 高柳智子, 藤川あや
新潟県立看護大学看護研究交流センター 地域課題研究開発部門

I. 活動概要

1. 上越地域看護研究発表会の開催

上越地域の看護職員の連携を図る目的で, 新潟県立看護大学看護研究交流センターと新潟県上越地域振興局健康福祉環境部の共催で開催され, 182名の参加者で会場は熱気があふれていた。上越地域の各病院や地域に所属する看護職員が, 臨床の場で取り組んできた研究発表に対し, 参加者からは活発な質問がされ, 「上越地域の看護の実践を知ろう」というテーマの目的を達成することができた。

(この様子は上越タイムス: 2010年10月16日号にも掲載された。)

1) 発表会プログラム

日時: 平成22年10月13日(水) 場所: 新潟県立看護大学(第1ホール)

(1) 研究発表内容(口演) 座長 和田恵美子(県立中央病院)

① 長期入院患者の退院促進支援

柴田晶成(三交病院)

② 小規模病院における退院調整看護師の活動実践報告～入院時から関わることのメリット～

池田美津子(県立柿崎病院)

③ 感染防御の観点からオムツ交換の手順を見直して

古川英子(知命堂病院)

④ 排泄ケアについての実践報告～組織的に取り組むオムツはずし～

小池洋子(上越地域医療センター病院)

⑤ 合併症をもつ糖尿病患者の援助の振り返り～行動変化を導いた事例を通して～

水澤三津江(新潟労災病院)

⑥ 医療観察法病棟の急性期から回復期における治療ステージ移行に関する因子の検討

福山敦子(さいがた病院)

⑦ SEIQOL-DWを用いたQOL向上への支援 ～ALS患者へのアプローチより～

澤海詩子(上越総合病院)

⑧ A病棟の褥瘡処置(ラップ療法)の現状と今後の課題

穂苅由美(県立妙高病院)

⑨ 透析室災害対策においてアクションカードは有用であるか

横尾容子(県立中央病院)

(2) 研究発表内容 (ポスターセッション) 座長 高柳智子 (新潟県立看護大学)

① 病棟における災害時アクションカード作成の取り組み

丸田伸彦 (県立中央病院)

② 糖尿病フットケア外来の活動報告

武田織枝 (県立中央病院)

③ 上越地域における発達障害児相談支援体制整備に向けて～相談体制図作成をきっかけにした地域の小児科医との連携について～

本間祐美子 (上越保健所)

④ 施設における HIV 研修会のアンケート調査結果から見た今後の取り組み

後藤香澄 (上越保健所)

2) 上越地域看護研究発表会実行委員会の活動

上越地域振興局健康福祉環境部、新潟県立看護大学看護研究交流センター地域課題研究開発部門 (以下大学とする) が実施主体となり、上越地域の病院、保健所、市役所等の看護職員による実行委員会を編成、運営した。企画実行委員会は、3 回開催し (平成 22 年 7 月 5 日、7 月 29 日、9 月 13 日) 看護研究発表会実施に向けて、各病院・市町村等の現任研修の状況を話し合い、テーマや演題募集についての検討を重ねた。

平成 22 年度上越地域看護研究発表会第 1 回実行委員

議題: 看護研究発表会実施要項の説明、各病院・保健所・市町村等の現任研修等の情報交換、
テーマや演題募集についての検討、今後の進め方について

各病院・保健所・市町村等は、何らかの形で研究に取り組んでおり、研究成果を施設内で発表していたことから、施設の枠を越えて研究成果を発表し共有する意義を確認した。その中で大学の役割としては、研究をまとめる際のサポートと必要時に他の大学教員につながる事が挙げられた。

テーマは「上越地域の看護の実践を知ろう」に決定した。



平成 22 年度上越地域看護研究発表会第 2 回実行委員

議題: 看護研究発表会の日程および内容の検討、各病院・保健所・市町村の研究発表候補者の検討、準備スケジュールおよび実行委員の当日の役割分担検討

各病院・保健所・市町村の研究発表候補者が挙げられ、各施設の実行委員が声かけを行っていくこととなった。大学、保健所においては、上越地域看護研究発表会演題募集要項を作成し、演題募集に関する書式の整備を行った。



議題：抄録の査読，群分け，プログラム作成作業，大学と保健所の役割分担

倫理的配慮を中心に抄録の査読を行い，抄録集の作成を進めた．その他，大学の役割はプログラム・発表者への連絡事項の作成，掲示物等，必要物品の準備をすることに決定した．保健所の役割はポスター作製，実行委員会の役割分担表作成，当日派遣依頼公文書の作成と発送に決定し，上越地域看護研究発表会開催に向けて大学と保健所で協力して準備を進めるための検討を重ねた．

3) 広報活動について

上越地域研究発表会の広報活動は，以下のように実施した．

- ①保健所が主体となり，ポスター，チラシ，発表会通知文を作成し上越地域の病院，保健所，市役所，看護大学等に配布した．
- ②発表会の様子が上越タイムスに掲載された．（2010 年 10 月 16 日号）
- ③発表会の様子を新潟県立看護大学看護研究交流センターHPに掲載した．
- ④発表会の様子を新潟県立看護大学広報誌「ポルティコの広場（18 号）」に掲載した．

今後は，より多くの上越地域の看護職員の参加を図るために，広報する時期の検討，新潟県立看護大学看護研究交流センターHP の活用，広報誌・新聞等への広報依頼を検討していくことが必要である．

2. 地域課題研究の支援

新潟県内の保健・医療・福祉に携わる看護職を対象に公募した地域の看護実践での研究課題について 9 件の応募があった．（公募期間：平成 23 年 1 月 14 日（金）～2 月 28 日（月））

1) 活動内容

①地域課題研究システムの開発（図 6）

地域課題研究公募から採択までのシステムを開発，運用した．

②公募要領の作成

公募要領，研究計画書，研究計画書記入要領，研究選定基準，研究組織変更届を作成し活用した．

③広報活動

新潟県内の保健・医療・福祉機関（約 500 か所）に公募要領を郵送すると共に，新潟県立看護大学看護研究交流センターHPに掲載し地域課題研究公募の広報活動を実施した．

④地域課題研究申請書類に関する説明会の開催

選考委員会からのコメントを学内責任者に返却し，地域課題研究計画書の修正，提出期限について周知を図った．

⑤内定通知の発送

3 月下旬に研究代表者へ内定通知の発送を行う予定である．

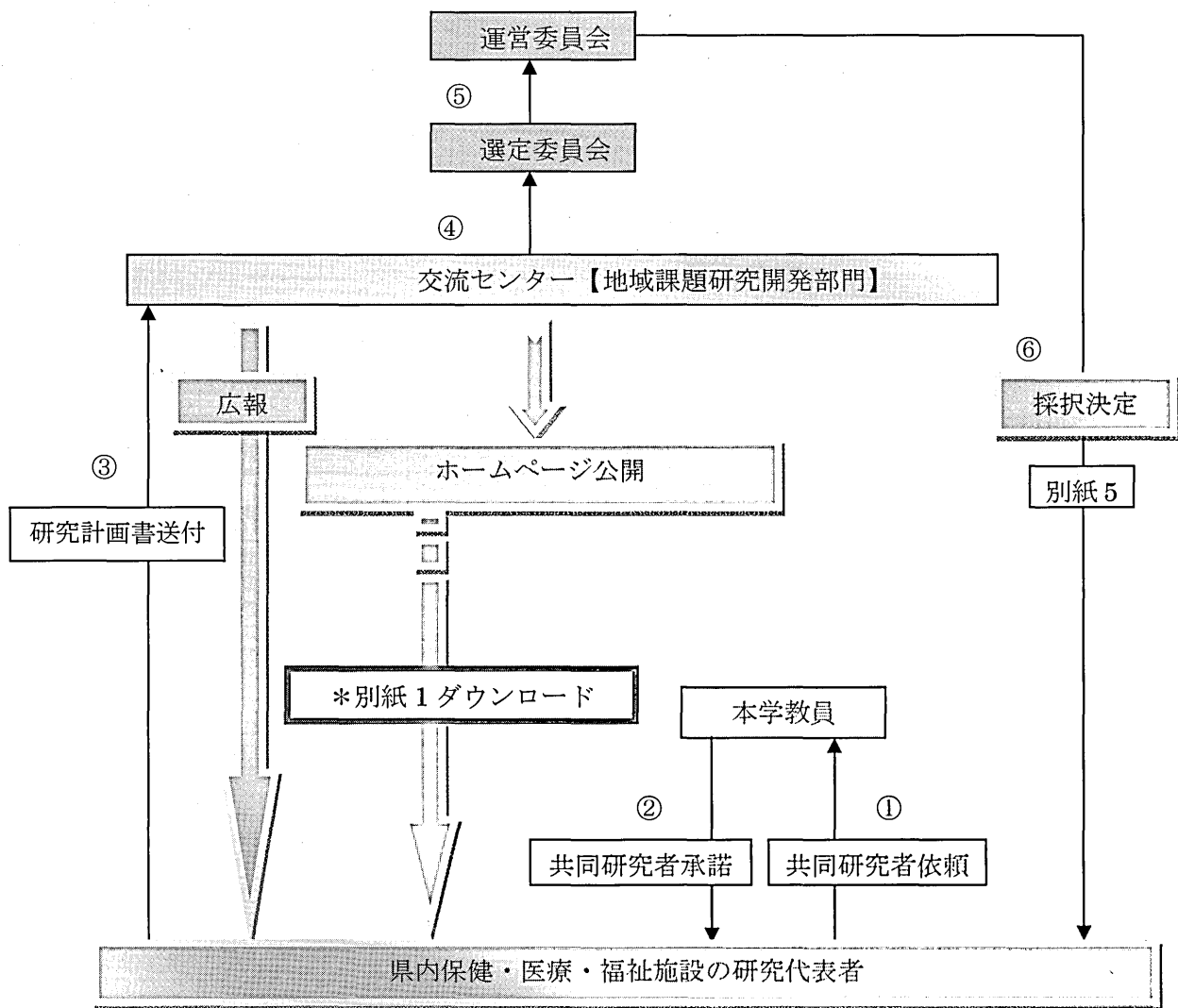


図6 地域課題研究申請システム

II. 平成22年度の評価と今後の展望

上越地域看護研究発表会については、新しい試みであったが、参加者が多く、臨床研究の内容も多岐にわたっており、看護研究発表会のニーズは高いと思われる。また、保健所と大学の役割の明確化、会場設営、ポスターセッションの時間等の課題も明らかとなり、来年度に反映させていきたい。

地域課題研究については、公募システムの開発、公募要領等の作成を実施し、新潟県内の保健・医療・福祉の看護職から9件の応募があり、システムは順調に稼働していると思われる。課題としては、研究計画書作成時における研究代表者と学内教員への支援のあり方について検討していくことが必要である。来年度は、地域の看護職者が応募しやすい公募期間の設定、効果的な成果発表会の方法を検討し、地域の看護職者の看護研究の取り組みと発展を支援していきたい。

資料

<上越地域看護研究発表会終了後のアンケート結果>

1.参加者の所属

病院	保健所・市町村	大学・専門学校	学生	その他	計
105	4	4	1	10	124
84.7%	3.2%	3.2%	0.8%	8.1%	100.0%

2. プログラム全体について

とても良い	良い	より工夫が必要	計
25	85	9	119
21.0%	71.4%	7.6%	100.0%

3. 口演発表について

とても良い	良い	より工夫が必要	計
34	78	7	119
28.6%	65.5%	5.9%	100.0%

4. ポスターセッションについて

とても良い	良い	より工夫が必要	計
15	61	25	101
14.9%	60.4%	24.8%	84.9%

5. 広報活動について

とても良い	良い	より工夫が必要	計
16	83	10	109
14.7%	76.1%	9.2%	91.6%

6. 運営について

1)会場の広さについて

ちょうど良かった	もっと広い会場が良かった	もう少し狭い会場が良かった	計
37	84	2	123
30.1%	68.3%	1.6%	100.0%

2)プレゼンテーション機器等の配置について

適切だった	改善すべき点がある	計
100	18	118
84.7%	15.3%	100.0%

7. 発表について

1) 発表時間について

適切だった	時間は長かった	時間は短かった	計
111	6	5	122
91.0%	5.9%	4.1%	100.0%

2) 質疑応答の時間について

適切だった	時間は長かった	時間は短かった	計
85	24	9	118
72.0%	20.4%	7.6%	100.0%

8. 従事年数

1年未満	1～4年	5～9年	4年以上	なし	計
6	2	6	99	0	113
5.3%	1.8%	5.3%	87.6%	0.0%	100.0%

<参加者の感想>

- ・実践報告が多いのは現場の研究発表ならではのと思う。分析方法・評価指導など工夫するとさらに良い発表になりそうなものばかりで、今後を期待している。
- ・素晴らしい発表、大変ご苦勞を思わせる状況で今後も知識向上に向けて発表を期待する。
- ・とても良い実践研究もあるが、まとめ方の技術と、論旨のまとめ方の指導があれば、非常に実践の場の質向上に寄与すると思われる。
- ・上越地域病院がどのような研究が行われているかを知ることができた。こういった意見交換の場も必要だと思う。
- ・最後に看護大学での取り組みが聞けたのは良かった。上越地域に唯一ある大学なので、利用したくても敷居が高く感じていたため訪問することがなかったのが良かった。
- ・平日、勤務終了後の2時間以上の研究発表会はきつuitと感じる。演題数や出席人数を考えると土曜日の開催も検討してほしい。